

雷の子

カトリック町田教会
町田市中町3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。 ルカ 2.11 ~ 12

降誕物語

助任司祭 天本 昭 好

数ヶ月前のことです。テレビを見ていたら、料理研究家の辰巳芳子さんが対談している番組をみかけました。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、彼女が作るスープの味は、いのちを支えるスープと形容されているほどです。彼女のレシピをもとにしたスープを患者さんに提供している病院もあるそうです。これほど絶賛されているスープな

らば、飲んでみたい。そんな欲求が当然のように湧き起こってきます。しかし、同時にまた別の思いも出てきます。手入れの行き届いた調理道具を揃え、素材を見極め、手間をかけ、火加減や、味の微妙な塩梅を決めていき、スープが完成するまでに幾重にもわたる繊細な配慮と段取りが必要なようでした。それを見ていると、とても不精な私に

はできないもののように思えてなりません。テレビではいかに時間を使わず、手間をかけず、素材もできるだけ安い物で、おいしい料理がこれだけできるといった謳い文句の料理番組が流行る今の時代です。時代に逆行うかのような辰巳さんの作り方に、憧れを感じながらも、余程の時間とお金とそして心の余裕がないかぎり私にはできない。驚沢な料理の類と同じように、それ相応のものをかけているのだから、おいしさに決まっている。だったら私にとって遠い存在なのかもしれないと思ひ込んでいました。

しかし、番組のなかで彼女が料理研究家としての出発点を話しているとき、若いころの十数年に及ぶ闘病生活を表現した言葉が私の耳に残りました。霜山先生が訳された『夜と霧』の世界という間接的な表現だっと思ひます。言葉数が少なくても、何か言わんとすることが十分に伝わってくるようでした。『夜と霧』という作品は、オーストリアの心理学者、ヴィクトール・E・フランクルが残した体験記です。強制収容所で、どんなに絶望を抱いたとしても生きる意志を失わない人間の姿を描いています。

そこから私が受け取って理解したことは、辰巳さんにとっての料理は生きる意志を養い育てるもの。なおかつ、いのちに向き合う作業だということ。だからこそ、面倒に思わずに丁寧に丁寧に仕上げていく。ここに彼女の料理の原点があるのだと合点がきました。先ほどのような思ひしか抱けなかった私は、恥じ入るしかありません。

このことはもしかすると、クリスマスを迎えるすべての人にとって、クリスマスがどのようなものなのかを見つめることとつながるように思ひました。

クリスマスには、街並が光り輝くイルミネーションで飾られ、クリスマスソングがどこからともなく聞こえてくる。クリスマスイブにはケーキを食べ、プレゼントをこどもたちへ渡しに行く。楽しい雰囲気の中、温かい気持ちに包まれていた。

もちろん、素直に喜び祝う気持ちはとても大切です。ただ、このようなわたしたちの思ひだけで、このクリスマスを迎えたのなら、ただ闇雲に、聖なる夜を強調するロマンティックなお祭りになってしまひそうです。雰囲気は流されたり、社会の風潮によって、ともに祝うことの意味を見失

つてしまうことがあると思ひます。

教会はクリスマスの夜半ミサに、必ずルカ福音書の2章のイエスの誕生の場面を朗読します。ひとりのみどり子がわたしたちの救い主として生まれた。その方は飼葉桶に寝かされた、と物語は語りかけていきます。飼葉桶に寝かされていることも、宿屋には彼らの泊まる場所がなかったから「(ルカ2:7)」という理由も、どちらか、わたしたちの思ひの延長線上で救い主が誕生したのではないことを告げているのかもしれない。かえって、不自然に思ひえる描写を語ることによって、物語はわたしたちになぜなのかという問いを湧き起こさせてくれます。何度も聞かないと、伝えようとする意図を受け取ることができないのかもしれない。

毎年同じ物語を聞いていくなかで、当たり前のように聞き流すのではなくて、わたしたちがわたしたちへの問いとして丁寧に味わっていく作業が必要なのかもしれませぬ。それが物語を通しての、いのちに向き合う作業なのだろうと思ひます。クリスマスが、ともにいのちを見つめていく時となりますように。

運営委員会

新しく来られたかたに優しい教会に

運営委員会議長 久保田 伸

今年度の始まりの雷の子で、「助け合い」「分かち合い」「深め合い」を大切にして運営委員会を進めたいと申し上げました。厳しい経済状態のなかで、町田教会の皆さまと共に心豊かな教会を育てていければ良いなと願っております。

運営委員会では、町田教会に初めてこられる方に、より優しい教会にするために、皆様のご協力を求めています。

私が初めて教会に行つたとき、右も左も聖歌の番号さえ分からずにいた私に、教会の案内係の方が「この方にミサの案内をしていただきます」と信者の方を紹介してくださいました。その方がミサの間そばにいて、聖歌の番号を覚えてくれたり、今ミサでどんなことが行われているかを説明してくれ、とても心強く、少しずつ教会というものが理解できたの思い出します。

町田教会では、初めて来られた方を組織的にどのように迎えるか、あまり手が打たれていないのが現状です。これからは、案内係や事務室受付担当者が「ミサのご案内をしましょうか」と声をかけ、希望者には、先日から発足した

なるように、皆さんと一緒にできるようにしたら良いか考えていきたいと思えます。

バザーを終えて

バザー実行委員会 伊藤 時光・鈴木 光

ミサボランティアの方を紹介するという形で、初めて教会に来られた方に優しい教会にしたいものだと思っております。ミサボランティアは初めての試みで、これからどのように運営できるか不安ですが、皆さまの叡智で、教会を少しでも知っていただき、親しんでいただくために、ミサボランティアの方に支えの力となります。皆さまには、ミサボランティアの活動についてご理解いただき、また、どうぞご参加いただけますようお願い申し上げます。

ミサ紹介の次は、ウエルカムテーブルの方々に活躍いただきたく思っています。ウエルカムテーブルで教会の地域プロック、教会業務、活動グループの活動について紹介していただき、いろんな方をご紹介します。幸い日曜日の聖書研究会もできましたから、そのうちそちらにも参加していただけるの良いですね。

教会にはほかに、改宗の方、カトリック信者で転入の方と、色々な新しい方が来られます。それらの方にも優しい教会に

町田教会はここ数年で大変活発な教会へと変わって来ました。毎週あちこちで会合や活動グループの催しが行われています。そんな中、地域プロックの存在をバザーを通じて強めたいという願いで、つながろう！のスローガンをかけ準備してきました。昨年は献堂五〇周年のお祝いがあり、二年ぶりの開催となりました。前日からの雨も開始頃には上がり、手馴れた男性陣が前庭にテーブルを設置しバザーが始まりました。今年各地域プロック連絡員の多くがバザー実行委員を兼務し、収益金は教会建設費継続立献金、教会献金、災害援助支援金として使うことになりました。恒例となった食品販売も直ぐに売り切れとなり、信徒ホールでは手作り作品や献品販売、ゲームなど盛況でした。外の肌寒さとは対照的に、信徒ホールでは買い物後にゆつくり歓談する姿も見受けられ、バザーによってより多くの人が教会を訪

イェホウエルカム・テーブル

教会内の親睦と交流の場。
毎週 第2ミサ後、コ-ヒ-を飲みながら
おしゃべりませんか！その中で
キラリと光る信仰の話など、話しあえれば
いいなと思います！（ルポ・池永）

代表の 村松さん

Welcome! Welcome! Welcome!
Are you lonely?
Do you want some one to talk to?
Share the joy with us chatting on our table.
Every Sunday 11:30~12:30

地下の信徒ホールの階段すぐそばにウエルカムテーブルです！

ウエルカムテーブルとは？
人と人をつなぐテーブル
国を越えて出逢うテーブル
旧知の人が新しい人と出逢うテーブル
ミサ後のコ-ヒ-タイム気軽に話せるテーブル
おしゃべりを楽しむテーブル
ミサ後 11:30~12:30 オープンのテーブル

壁に表示！

春 お花見
夏 黙想会
秋 紅葉狩り
冬 バナー
納涼祭
ガナフリ料理ご参加！

古くからの人も！
はじめての方も！
新たに受洗、
転入した方が
教会内の人と矢張りあえる
キッカケとなること！

出会いのテーブル！
20名くらい集まる
サロン化！
今日の福音が気づいた...

他の教会や未信者の方も参加！



れたことは言うまでもありません。作り手、売り手、買い手など色々な形で教会あるいは地域につながって、外国籍の方々も加わり、多くの人が協力して行われたバザーとなりました。実行委員会では、事前に途中経過を報告し合い、他のプロックの色々な工夫を聞き、お互いに良い刺激を受けました。ある地域では年に二回、年度始めとバザーの時に葉書きを送り、バザーでは「いつもの場所です、お待ちしています」と誘いかけています。また例年は各家庭で下準備をし当日持ち寄る形を、今年には教会と一緒に作るなど、長年の習慣を変えるのはなかなか難しいのですが、皆がバザーのスローガンに込めて気持ちよく参加してくれました。反省会で、初めは正直バザーは大変と感じたが案外楽

しかった、という声も聞こえ嬉しく思いました。本当にお疲れ様でした。

さて、バザーを終えて気がついたこともあります。案外他のプロックについて知らないということ。居住区によつては集まりにくい、高齢化して何かをするのは難しいという声も聞かれます。条件も違つし、同じようにする必要もありませんが、「知る」ことで何かヒントが探れるかも知れません。

最後になりましたが、ポイスカウト、ベロニカ苑、教会学校、中高生会の皆さまのご協力に感謝いたします。

ポイスカウト町田第一団

創立五十周年を迎えて

団委員長 平山 充

昭和三十四年、人口六万の田園都市町田の中心部、献堂間もない町田教会に通う三人の少年が、初代の主任司祭であつた川原謙三師に、「僕達ポイスカウトになりたい」と訴えたことから、町田第一団が始まりました。

団委員長は川原師、団委員は信者の塚田朝春・鈴木孝の両氏、ポイス隊長は教会青年会副会長松村芳之氏、スカウトは少年隊・二班十二名という、団としてはまさに最少の単位で、昭和三十五年一月二

十六日、東京連盟百二番目の団として、三多摩地区に編入されました。

スカウト数は、三年程の間に百名程に増加し、折からの町田の人口急増に伴い、市内各所に新設団が出現し、当団からも第五団が分封するなど新たな問題に直面することとなりました。

それは、団の発足以来経験を積んだ指導者が新設団に引き抜かれ、当団の指導体制が急速に弱体化したと、聖堂の内外に多数のスカウトがあふれ、特に日曜礼拝の際は、多くの信者の方々に迷惑をかけるようになった事です。

これらの対応として、スカウトの二父母に団委員・各隊指導者に就任して頂くこと、スカウトハウスを建てスカウトの集合場所を確保することが実現できました。この時の団委員・指導者の方々に、今でも教会でお会いできることは「われら団家族！」の具現であるうかと、衷心より感謝する次第です。

また、最初のスカウトハウスは、旧司祭館と消防署との間の法面に擁壁を築いて、埋め立て建築したものでしたが、神父様をはじめ信徒の皆様のご理解の賜物と御礼申し上げます。次第です。

ワンポイント聖書



(174)

前島 誠

それから一行はエルサレムに來た。イエスは神殿の外庭に入り、そこで売り買っていた人びとを追い出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返した。また器を持ったまま、神殿領域を通り、抜けるのを許さなかつた……祭司長たちと律法学者たちは、これを聞くと、どうやって彼を始末しようかと謀つた。

マルコ福音書11章15〜18

去る9月、ケセン語「新約聖書」の訳者、大船渡の山浦玄嗣医師から二枚の写真に添えられた便りが届きました。

「前からやってみてみたかった遊びをやつてのけました。ヘロデ大王による第二神殿の

模型です。60日かかりました。設計図を引き、荷作り用の紙紐を木工用ボンドで貼り合わせたものです。内部には聖所も、至聖所も作つてあり、屋根を外すと見えるような仕掛けになっています。(後略)

いつか読者にもお見せしたいのですが、実に見事なものです。中央には祭司ザカリヤが天使から洗者ヨハネ誕生のお告げを受けた場所、その奥に位置する至聖所など、お孫さんたちに説明する様子が目に見えるようでした。教典ミシユナにこうあります。

「だれも杖を携え、履物のまま、財布を身につけ、足に塵をつけたまま踏み入つてはならない」(ヘラホート9・5)



七五三おめでとう

スカウトハウスに関しては、現在の聖堂建築の際も、その対応問題を含め、建設委員会に団員を加えていただき、町田第一団の所有する種々の資器材・装備収納のため建造物の構造上、地下に構成される空間の活用、会議・勉強会等の場所として地下ホールの利用などを提案し認めていただいたことは、町田第一団の存続にも関わる大きな問題であったと考えております。

町田第一団は、町田教会を母体として創設されたカトリック団であり、全国カトリックボーイスカウト協議会に属しています。スカウトの本格的な宗教教育は、高木神父様にお願ひして、「キリスト教講座」を実施し、「キリスト教章」をめざすこととしています。

ボーイスカウト町田第一団の五十年は、かく過ぎましたが、新たな五十年も町田教会と共に地域に根差した動きをめざして行きたいものと考えております。

犠 牲 献 金
中高生会

10月11日 8,273円
(ペロニカ苑へ)

11月 1日 13,285円
(ペロニカ苑へ)

ヨゼフ会特別企画

NHKスペシャル
「異郷の10年」

取材・制作を巡って
ヨゼフ会では、去る11月1日、「難民」の番組の鑑賞と、取材にあたられたヨゼフ会の坂井さんからお話を伺う集まりを実施しました。

坂井さんは、カトリック姫路教会婦人会のご協力を得て「第1次受入難民」を取材され、この番組が生まれました。放映は約20年前のことですが、「難民」が今日的問題であることは、カトリック教会の機関紙等でも報道されているとおりです。当日は、多くの出席者がこの問題への認識を新たにすることができました。



「雷の子」次号編集会議予定
1月17日(日)09時30分
於会議室

信 者 動 静

2009年9月～11月

(個人情報のため、削除しています)

クリスマスと年始のミサ

★クリスマスのミサ	12月24日(木)	17:00
		19:30
		22:00
イブ(24日)のミサ前に ミニコンサートを行います	12月25日(金)	10:00
★年始のミサ	1月 1日(金)	00:00
		11:00